

【優秀賞】

【水と共に生きていくために】

東栄町立東栄中学校 三年 熊谷 信之介

僕の住んでいる東栄町は水が身近にあります。川はとてもきれいで、夏になると僕は必ず遊びに行きます。清流の女王とも呼ばれている鮎の味、香り、見た目などを競う「清流めぐり利き鮎会」では日本一になったこともあり、県外からも多くの釣り人が訪れます。そんな水を身近に感じていたある日、一つのニュースが報道されました。それは東栄町の隣、新城市にある宇連ダムで深刻な水不足が続いているというものでした。僕は最初に聞いたとき、イメージがあまり湧きませんでした。だから、詳しく調べてみることにしました。まず宇連ダムが造られた経緯を調べてみると、昔から豊橋市を中心とする東三河地域は、幾度となく水の枯渇に悩まされてきたことが分かりました。そこでこの地域に水を引こうと考えたのが、田原市出身の政治家、近藤寿市郎です。近藤が考えたのは新城市にダムを建設し、貯めた水を下流に流すというもので、昭和二十四年に建設工事が始まり、昭和三十三年に宇連ダムが完成しました。今では、下流の豊橋市などの市町村に農業用水や工業用水、上水道の水源として届けられています。しかし、二〇二五年十一月以降の記録的な少雨で、三月十三日時点での宇連ダムの貯水率は一パーセントを切りました。このままだと東三河地域にとっても深刻な影響が出ます。まず、断水や減水の可能性です。貯水率ゼロパーセントになった場合、通常の方法では取水できなくなります。ダムの放流口よりも低い位置に溜まった水をポンプで汲み上げる措置が取られます。ただし、送れる水の量が減るため、蛇口から出る水の勢いを絞る減圧給水が行われます。そのため、高台にある家は水が出なくなる可能性があります。そして、産業にも影響が出ます。東三河は農業と工業がさかんな地域ですが、宇連ダムを主な水源とする豊川用水に頼っているのが、産業界にも影響が出ます。水の供給が止まると農業では作物の枯死や収穫量の減少につながり、工業では工場の稼働率の低下や悪化、停止を余儀なくされ、地域経済に大打撃を与えます。環境や景観の変化も予想されます。貯水率が低いと、かつてダム湖に沈んだ集落が姿を現してしまいます。それだけではなく、ダムに生息する魚などの水生生物にとっては過酷な環境になります。このようにダムの貯水率が低いのは私たちの日常生活に様々な影響をもたらします。

日常生活では水がないと成り立たないことがたくさんあります。手を洗ったり、料理をしたり、お風呂に入ったりすること全てには水が必要です。他にもありますが、水はそのくらい大切なものなのです。水を大切にすることは誰にでもできることだと思います。私たちにできることは大きく三つです。一つ目は使う量を減らすことです。もし一分間、蛇口の水を出したままにしていると、十二リットルも無駄になるそうです。だから、歯磨きやシャワーの際、こまめに水を止めることで節水につながります。蛇口を全開にせず、絞って使うことも効果があります。二つ目は水を汚さないことです。大きじ一杯の醤油をきれいな水にするには浴槽二杯分の水が必要になるそうです。なるべく紙

で油污れなどを拭き取ってから洗うと良いです。三つ目は見えない水を意識することです。僕は、最近知った言葉があります。「仮想水」という考え方です。牛肉を作るにしても、その牛が飲む水や餌となる穀物を育てる水を含め、たくさんの方が使われています。食べ残しをしないことも節水なのです。

水が身近にあった分、水の本当の「ありがたみ」に気づいていませんでした。これからも水の問題には関心をもつて過ごしていきます。そして、目に見える水と見えない水にも感謝して、かけがえのない「水」という資源を今後も大切に使い続けていきます。